

## ● 菰野町の農業について

### <現状>

#### コスモス交流会



菰野町内の農用地面積は約1,970haであり、その内の約1,689haが農用区域に設定されており90%が県営・団体営のほ場整備事業等により基盤整備済です。しかし、ほ場整備事業後40年が経過し水路やバルブ・埋設管などの老朽化対応が喫緊の課題になっています。施設の軽微な補修については、町内の各農業団体が多面的機能支払制度を有効活用しながら、用排水路や農道・バルブ整備など老朽化した施設の整備・更新に努力しています。特に里山に近い中山間部では水路の傷みが激しく維持補修に費用がかかります。次世代に引き継ぐためにも、機能が低下した農業施設の計画的な保全対策が必要です。

## ● 中山間地域等直接支払制度



山地の多い日本では中山間地域が耕地面積の約4割を占め、我が国の農業で重要な位置をしめています。中山間地域での農業生産活動は洪水や土砂崩れを防ぐ、土壌侵食防止機能、土砂崩壊防止機能を発揮します。そして美しい風景や生物多様性を守り、SDGs達成にも貢献するものです。そのために中山間地域等直接支払制度が

が実施されています。

菰野町の山ぎわには、農林業センサス上の単位として、「朝上地区」「千種地区」「菰野地区」があります。「朝上地区」「千種地区」は中間農業地域であるのに対し、「菰野地区」は、山間部から市街地まで含む大きな地区であることから都市的地域に分類され、山村振興法、過疎法などを含む5法地域が存在しないことから、**地域振興立法の指定が受けられません。**そのために、中山間地域等直接支払制度を活用できない状況となっています。

菰野地区でも朝上地区・千種地区と同等の農地があり、管理していくのにも同等の苦勞があります。菰野町の美しい景観や生物多様性を守っていくためにも、中山間地域等直接支払制度の活用ができるように国・県に働きかけていきます。

## ● 燃料費の高騰

農業生産を行う上で、軽油・灯油・混合油などの燃料は必要不可欠な生産資材であり、近年の価格の上昇などは農業者の経営に深刻な影響を与えています。

特に菰野町は中山間地域であり、傾斜地が多く一枚の大きな水田にすることが難しい地域であることから、機械の燃料消費も多くなります。燃料費が高騰しているにもかかわらず、町道・県道に隣接する農地の管理者は、町・県が管理すべき部分の除草作業を行ってもらっています。また子どもたちが通学路を安全に安心して登下校できるように配慮し除草がされています。このような社会情勢のなか、一刻でも早く軽油引取税の免税措置の拡充や菰野町独自の支援策が必要と考えています。



## ● 農業関係者間での意見交流会



伊藤敦町議のご尽力により、進藤金日子参議院議員(全国水土里ネット会長会議顧問)、水土里ネットみえの方々、服部県議、菰野町行政、菰野町農業関係者の皆さんが集まり意見交流会が開催されました。進藤参議を中心に農業に関する多様な意見が出されました。本会報での農業の課題や6次産業化の推進、輸出米や米粉用米など、盛りだくさんの議論ができ、有意義な意見交換ができました。今後も国、県、町で連携し活動していきます。

菰野町議会会派

菰野町議会 カガヤキ こもの輝 第12号

発行者：こもの輝 代表 諸岡 雅樹

連絡先：加藤 大輝

090-3511-0808

編集・発行 2023年2月発行 この広報紙は政務活動費により作成したものです。